

# 米沢市上杉博物館 「上杉文華館」 目録

年間テーマ：上杉定勝

9月23日（木）～10月26日（火） 期間テーマ：定勝の文芸①～漢詩文と歌～

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	番号	所蔵
複製 狩野永徳 国宝上杉本洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	原本 室町～桃山 (16世紀)	複製B	米沢市上杉博物館
1 上杉定勝一座連歌百韻	1通	18.5×53.7	寛永4年 (1627) 11月25日	323	米沢市上杉博物館
2 上杉定勝詩文	1通	36.0×49.9	(江戸時代前期)	1616	米沢市上杉博物館
3 海山元珠詩文	1幅	35.0×46.5	(寛永3年10月頃力)		米沢市上杉博物館
4 上杉定勝詩草	1通	53.2×37.4	(寛永3年7月頃力)	1604	米沢市上杉博物館

本年度の上杉文華館は「上杉定勝」と題して、国宝「上杉家文書」に見える上杉定勝関連資料を中心に約1ヶ月ごとに展示替えしながら、その他の関連資料を含めて展示します。

上杉定勝は、慶長9年（1604）5月5日、米沢藩初代藩主・上杉景勝の長男として米沢城で生まれました。母は側室の公卿・四辻公遠の娘でした。元和9年（1623）に景勝が死去すると、定勝は2代藩主に就任しました。定勝の藩政では直臣による合議的な政治体制のもとで、米沢城内の整備や家臣団の再編成、キリシタンの取締りの強化、藩内の総検地などが行われました。定勝の藩政は、これまで行われてきた直江勢力による専制的な執政体制からの大きな転換期と位置付けられており、その後の米沢藩政の基礎となりました。定勝は、正保2年（1645）9月10日に米沢城で42年の生涯を閉じます。

また、定勝は文芸面にも優れており、漢詩や和歌(連歌)などを多く残しています。『上杉家御年譜』には、飛鳥井家・勸修寺家・高倉家などの公家との交流が多く確認できるほか、近侍の諸士に中国古典の内容を講義する記載もあります。定勝はまさに文武両道の藩主だったと言えます。

## 〔定勝の文芸①～漢詩文と歌～〕

今回の期間テーマでは、定勝が遺した漢詩文や歌に注目して、定勝の文芸面について見ていきます。幼少期の定勝は、父・景勝の教育指導によって様々な文献をとおして教養を身に付けていきました（2021年度上杉文華館期別テーマ「親と子①～景勝の教育～」で紹介）。その後、定勝は元服を遂げて藩主になると、教養の幅をさらに広げ、自ら和歌（連歌）や漢詩文を創作するようになります。これらは、国宝「上杉家文書」の中に多く残されています。

定勝は上杉家と関係の深かった京都・妙心寺の僧侶を学問の師として仰ぎ、米沢藩における学問の基礎を築きました。なかでも九山宗用や海山元珠は上杉家との関わりが深く、定勝の教育・文芸面を支えた存在として注目されます。こうした禅僧との交流は、京都文化の地方伝播に大きく寄与しており、米沢藩の文化的繁栄に結び付けられます。